第1回資源循環推進部会資料
【資料2】

明石市一般廃棄物処理基本計画の改定について

②　前計画の総括・アンケートの実施について

4. 前計画の総括

4-1　施策の進捗状況(1)前計画の評価

《環境マネジメントシステムによる評価》

前計画における32推進項目の9割が“良好”もしくは“可”評価として順調に進捗している。
指定ごみ袋導入にかかる地域説明会をはじめ市民啓発に注力したことから、推進項目「2R型のライフスタイル・ビジネススタイルへの転換」については計画を上回る成果(S評価)となった。
一方、推進項目「家庭系ごみの有料化導入検討及び手数料の適正化」及び「事業系ごみ処理手数料の適正化」については、情報収集にとどまり、搬入手数料の適正化の検討を今後に継続する結果(C評価)となった。

(達成状況)

基本理念	基本方針	基本施策	推進項目数	達成項目数 S	A	B	C
環境への負荷が小さく持続可能な循環型のまち・あかし	ごみの発生抑制を最優先、次に再使用・再生利用	家庭から出るごみを減らす	5	1	3		1
		事業者などから出るごみを減らす	4		2	1	1
		ごみの再使用・再生利用への誘導	4		2	2	
		合計	13	1	7	3	2
	パートナーシップによる取り組み強化	情報の共有化	3		2	1	
		参画と協働のネットワークづくり	5		2	3	
		合計	8	0	4	4	0
	ごみの安全・安心な適正処理	環境負荷を低減した適正処理の推進	6		5	1	
		経営感覚にもとづく施策の推進	3		3		
		今ある施設を最大限活用	2		2		
		合計	11	0	10	1	0

【評価指標】

S:110%以上
(計画を上回る成果)

A:80～110%(良好)

B:60～80%(可)

C:60%未満

4-1　施策の進捗状況(2)ゼロ・ウェイストあかし

資源循環型社会の実現を目指し、市民、事業者と協働して3Rを推進するため、
R5年度より「ゼロ・ウェイストあかし」を合言葉に、ごみ減量・再資源化にかかる取組を強化。

《これまでの取り組み》

○集団回収の推進
　地域の再資源化の取組を助成金交付により支援

回収実績　(t/年)

2023(R5)	2024(R6)	2025(R7)
3,344	3,104	2,827

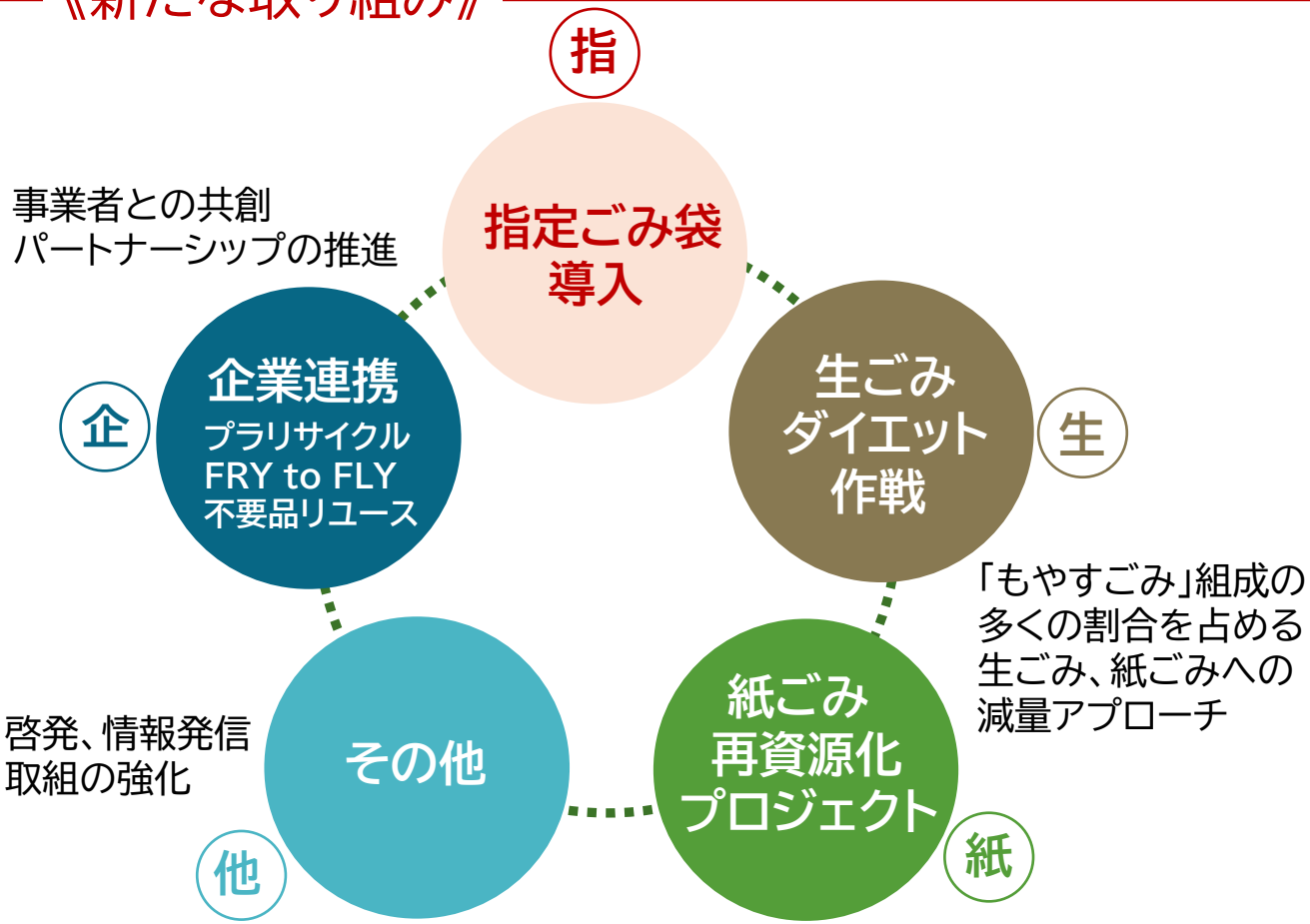
○ごみ減量推進員・協力員制度を通じた市民参画・協働

○レジ袋削減協定等の事業者との連携

○環境学習の推進(施設見学等)

強化推進

《新たな取り組み》



取組のパッケージ化による推進

4-1　施策の進捗状況(2)ゼロ・ウェイストあかし

《ゼロ・ウェイストあかしの取り組み》

紙

2024(R6)年
1月～

あかしリサイクルbox
Taco箱

もやすごみに混在する再資源化可能な紙の分別を促進するため、市役所と明石クリーンセンターに常設型の紙類専用リサイクルBOX(Taco箱)を設置。



回収実績　(t/年)

2023(R5)	2024(R6)	2025(R7)
3.8	25.3	75.9

※クリーンセンターは2025(R7)年4月から受入開始

紙

2024(R6)年
1月～

事業系
機密文書無料引取

事業者が排出する個人情報等を含む文書を無料で引き取り、再資源化。



回収実績　(t/年)

2023(R5)	2024(R6)	2025(R7)
6.9	44.6	81.5

企

2024(R6)年
4月～

ペットボトルの水平リサイクル
ボトルtoボトル

市が回収した使用済みペットボトル全量を再生原料として、アサヒ飲料およびコカ・コーラ製品の容器として再利用。



リサイクル実績　(t/年)

2024(R6)	2025(R7)
245.0	212. 5

4-1　施策の進捗状況(2)ゼロ・ウェイストあかし

《ゼロ・ウェイストあかしの取り組み》

2024(R6)年8月～　家庭用　生ごみ処理機購入助成　生

家庭用生ごみ処理機等を購入した市民に対し助成を行うことで、ごみの減量を促進。



購入金額の1/2助成

〔上限〕
電動処理機：3万円
コンポスト等：5千円

生ごみ減量効果　(t/年)

2024(R6)	2025(R7)
18.3 (253)	15.0 (265)

(　)内は助成件数

※助成交付対象者事後アンケートに基づく推計値

2024(R6)年11月～　使用済み　ハブラシリサイクル　企

ライオン㈱と連携し、使用済みハブラシを回収し、再資源化。



【リサイクル成果品】



遊具用ブロック
市内の子育て支援センターで活用

回収実績　(kg/年)

2024(R6)	2025(R7)
70 (6,312)	165 (16,404)

(　)内は回収本数

2025(R7)年10月～　不要品リユース事業　企

事業者と連携し、家庭の粗大ごみを出す前に、事業者による買取りや譲渡の検討を提案し、リユースを促進。



【おいくら】
買取査定
業者紹介
WEBサイト

【ジモティースポット】
不要品無料
引取スポット



※ジモティースポットはR8. 8. 21オープン

4-1　施策の進捗状況(2)ゼロ・ウェイストあかし

《ゼロ・ウェイストあかしの取り組み》

企

2026(R8)年2月～　廃食用油のリサイクル

FRY to FLY Project

事業者と連携し、家庭や事業者から廃食用油を回収し、持続可能な航空燃料(SAF)としてリサイクル。



回収実績　(t/年)

2023(R5)	2024(R6)	2025(R7)
35.4	36.1	35.7

他

ごみ減量・再資源化の啓発

2023(R5)年10月～
ごみ減量通信
『ゼロ・ウェイストあかし』
年4回発行



2025(R7)年3月
事業系ごみガイドブック
発行

2026(R8)年4月
小学4年生学習用副読本
めざせ！ゼロ・ウェイストあかしマスター
発行

出前講座・ワークショップ・説明会
参加者実績　(人)

2023(R5)	2024(R6)	2025(R7)
394 (15回)	847 (22回)	2361 (83回)

(　)内は開催回数

他

小型家電リサイクル

約60品目
41拠点で回収

リサイクルできる小型家電の拠点回収を実施。希少金属を再資源化。

回収実績　(t/年)

2023(R5)	2024(R6)	2025(R7)
37.4	35.9	45.6

リサイクル家具

年6回抽選で
安価にて譲渡

粗大ごみとして出された家具をリペアして市民に安価で譲渡。リユースを促進。

譲渡実績　(件数)

2023(R5)	2024(R6)	2025(R7)
72	80	947

4-1　施策の進捗状況(2)ゼロ・ウェイストあかし

《ゼロ・ウェイストあかしの取り組み》

単純指定ごみ袋制度の導入

移行期間　2026(R8)年9月1日～2027(R9)年2月28日
本格導入　2027(R9)年3月1日～

指

これまでの経過

2012(H24)　指定袋導入検討が一廃計画の推進項目に
↓ 推進項目として継続
2022(R4).4　一廃計画の改定
2023(R5).9　タウンミーティングの実施
2024(R6).9　市民アンケートの実施
2024(R6).10　ワークショップの実施
2025(R7).2　環境審議会にて報告
2025(R7).4　パブリック・コメント実施
2025(R7).6　条例の一部改正
2025(R7).7～ 市民説明会の実施

市民説明会

令和7年度
　市内28小学校区ごとに地域説明会を実施

令和8年度
　マンションの管理組合や単位自治会など概ね10名以上の地域の団体等からの要請に応じて、職員が出向

開催実績　（参加人数）

2025(R7)年	2026(R8)年
2092(80)	876(28)

※R8.7.31現在

(　)内は開催回数

4-1　施策の進捗状況(2)ゼロ・ウェイストあかし

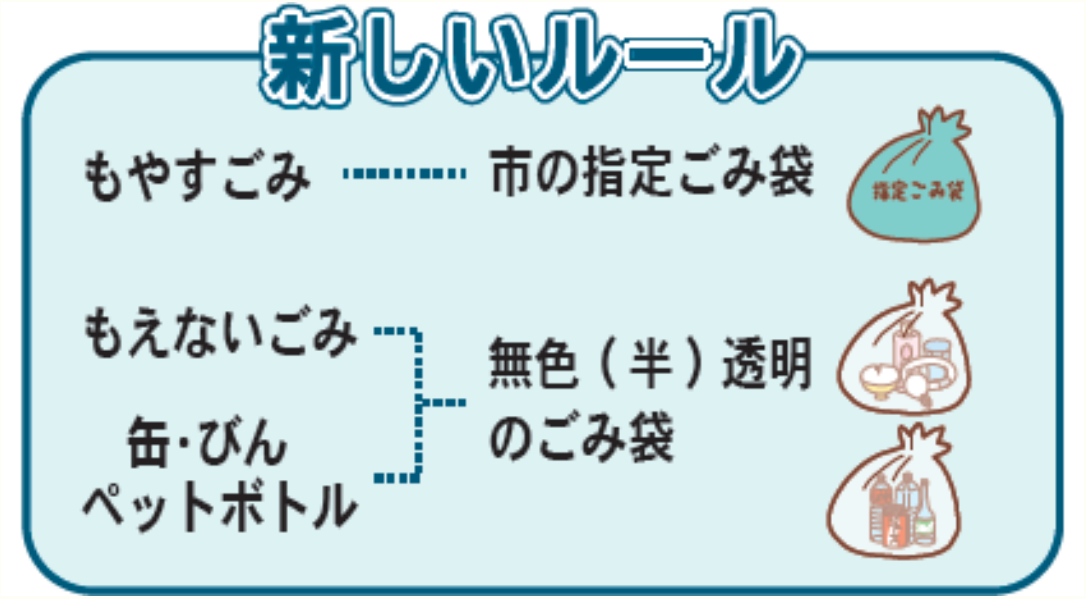
《ゼロ・ウェイストあかしの取り組み》

単純指定ごみ袋制度の導入

移行期間　2026(R8)年9月1日～2027(R9)年2月28日
本格導入　2027(R9)年3月1日～

指

家庭から排出されるごみの減量化を図るため、ごみ袋のルールを変更。
制度導入に併せてごみ分別の啓発、違反ごみ対応の厳格化を図ることで、ごみの減量化、再資源化を促進。





家庭系「もやすごみ」明石市指定ごみ袋

・少人数世帯の意見を反映し選べる3サイズ展開

・プライバシー保護の観点からミントグリーンの半透明

・ごみ出し、分別ルールの明記

・多言語表記、ピクトグラムによる誰にでもわかりやすいデザイン

ごみ減量効果(推計)

約8.8%減

2024(R6) 年に実施した市民アンケート(無作為抽出・ワークショップ参加者)の回答に基づく家庭系「もやすごみ」の減量効果

4-2　前計画の数値目標

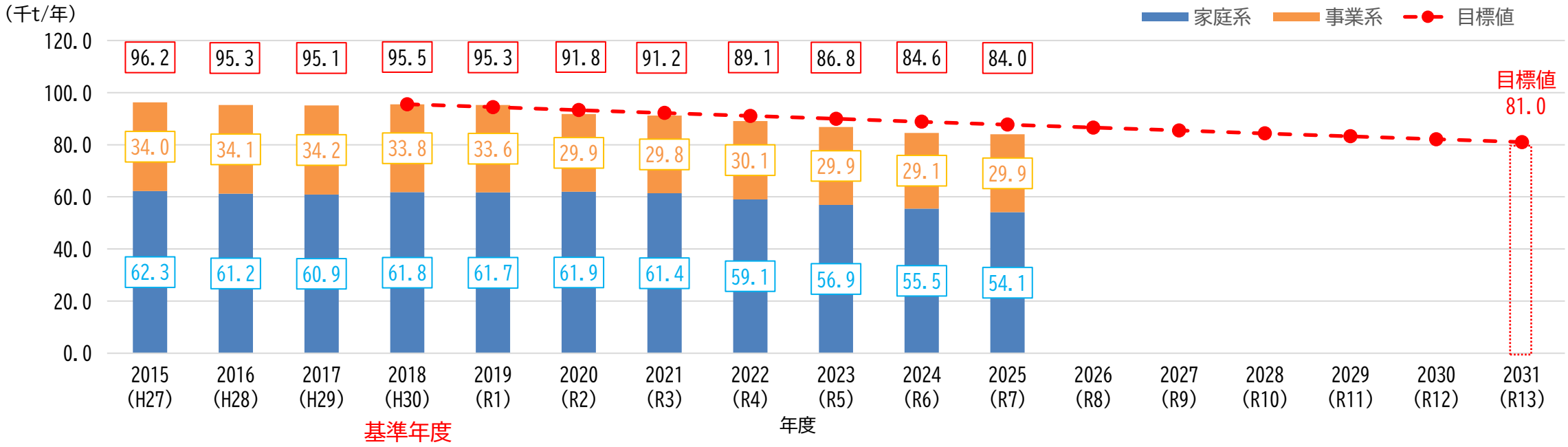
《数値目標》

	基準年度 2018(H30)年	目標年度 2031(R13)年	
市ごみ処理量	95,546　t/年	81,000　t/年	15.2%削減
ごみ排出量	91,404　t/年	77,000　t/年	15.8%削減
家庭系 もやすごみ 1人1日あたり排出量	488　g/人･日	411　g/人･日	15.7%削減
事業系 市ごみ処理量	33,768　t/年	27,500　t/年	18.6%削減
最終処分量	17,356　t/年	13,500　t/年	22.2%削減
リサイクル率	10.7　%	10.4　%	0.3ポイント減少

4-3　目標指標の達成状況(1)市のごみ処理量

《市のごみ処理量》

市のごみ処理量は、家庭系ごみが約65%、事業系ごみが約35%を占め、2018(H30)年度以降、減少が続いている。
家庭系ごみは、2020(R2)年度に微増したが、その後は年間0.5～2.3千t/年の減少傾向にある。
事業系ごみは、コロナ禍の2020(R2)年度に大きく減少したが、その後は29～30千t/年で横ばい傾向にある。

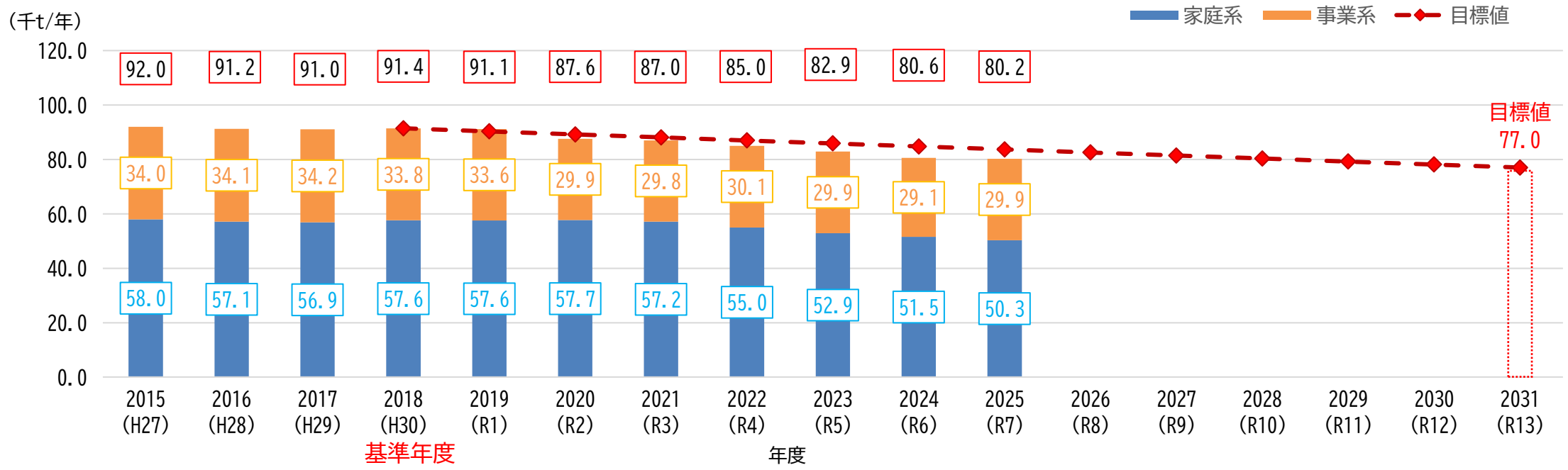


※市のごみ処理量とは、明石クリーンセンターにおいて処理するごみで直接焼却、破砕選別処理及び直接最終処分の対象となるもの。
※2025(R7)年度より、市の施設等から排出されるごみを事業系ごみとして計上。

4-3　目標指標の達成状況(2)ごみ排出量

《ごみ排出量》

ごみ排出量は、家庭系ごみが約65%、事業系ごみが約35%を占め、2018(H30)年度以降、減少が続いている。
家庭系ごみは、2020(R2)年度に微増したが、その後は年間0.5～2.2千t/年の減少傾向にある。
事業系ごみは、コロナ禍の2020(R2)年度に大きく減少したが、その後は29～30千t/年で横ばい傾向にある。

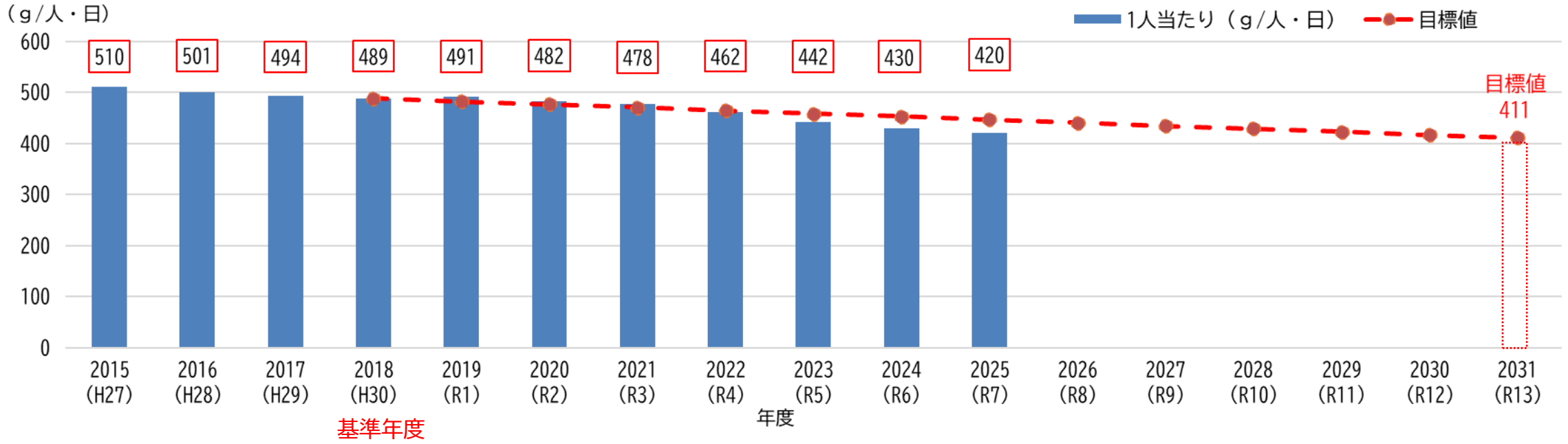


※ごみ排出量とは、もやすごみ及びもえないごみ。(再資源化可能なもの等は含まない。)
※2025(R7)年度より、市の施設等から排出されるごみを事業系ごみとして計上。

4-3　目標指標の達成状況(3)家庭系もやすごみ1人1日あたり排出量

《家庭系もやすごみ1人1日あたり排出量》

家庭系もやすごみ1人1日あたり排出量は、2019(R1)年度に微増したが、その後は年間4～20g/人･日の減少傾向にある。

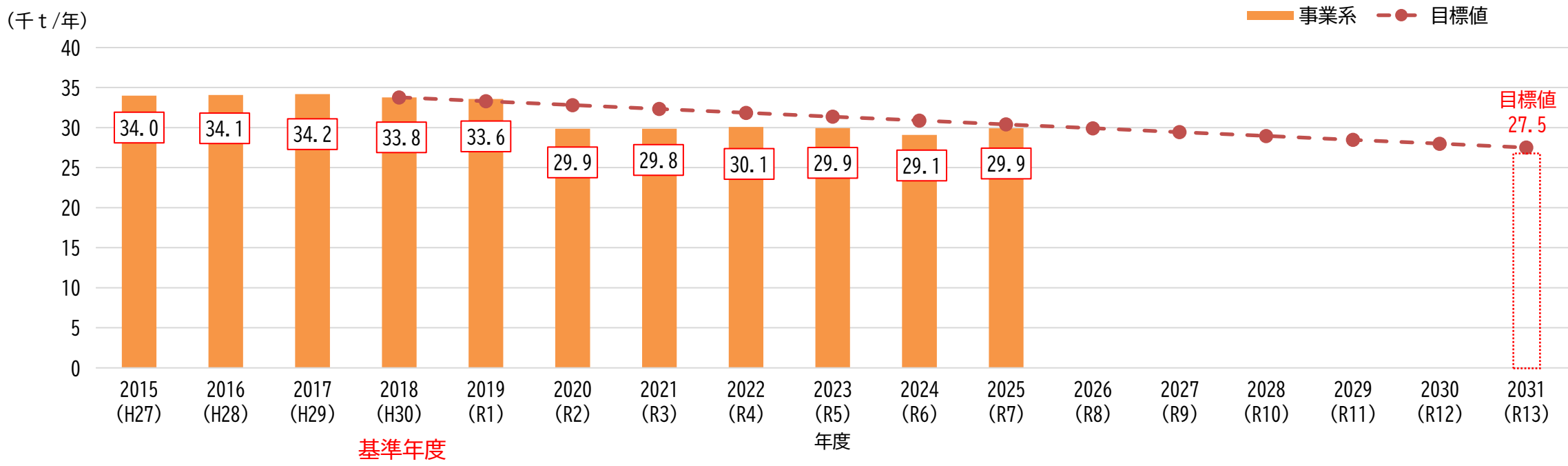


※直近の国勢調査人口に、住民基本台帳による人口の増減を加えて、各年10月1日現在の推計人口を算出。

4-3　目標指標の達成状況(4)事業系市ごみ処理量

《事業系市ごみ処理量》

市が処理する事業系ごみの量は、コロナ禍の2020(R2)年度に大きく減少し、その後は29～30千t/年で推移しており、全体としては横ばい傾向にある。

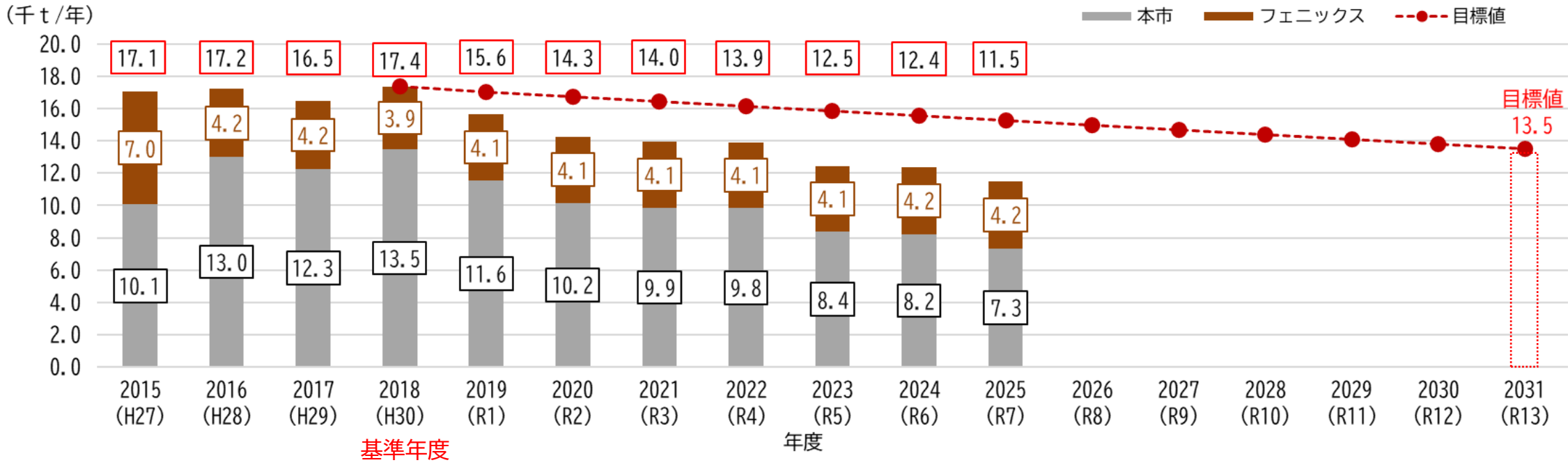


※2025(R7)年度より、市の施設等から排出されるごみを事業系ごみとして計上。

4-3　目標指標の達成状況(5)最終処分量

《最終処分量》

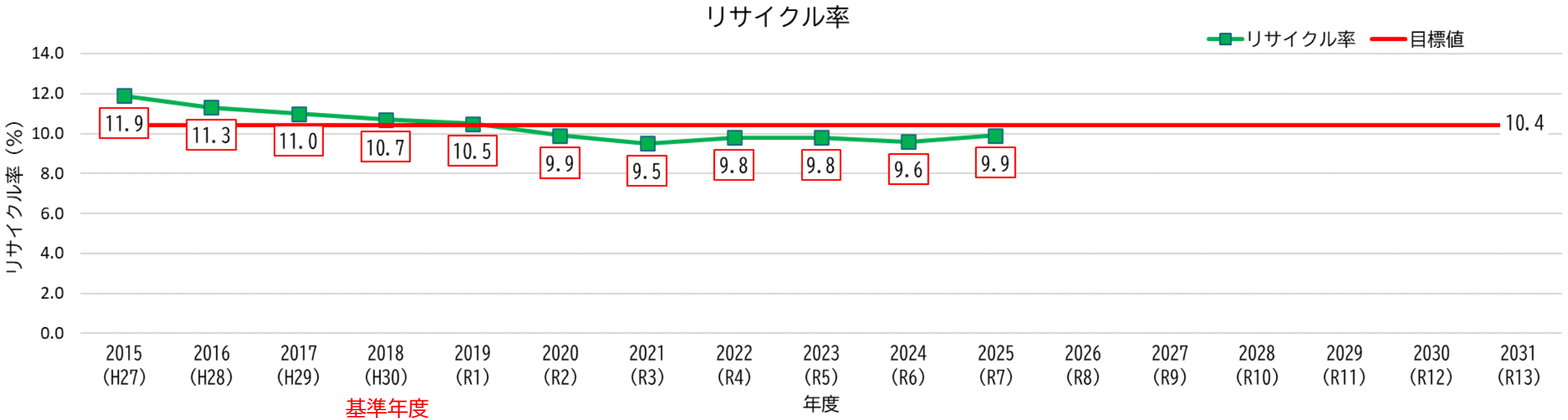
ごみの最終処分量は、2019(R1)年度に大きく減少し、2023(R5)年度に目標達成後も減少傾向が続いている。市有の第3次最終処分場の延命化を図る観点から、最終処分量については、できる限りの減量が望ましく、今後も継続的な課題として認識していく必要がある。



4-3　目標指標の達成状況(6)リサイクル率

《リサイクル率》

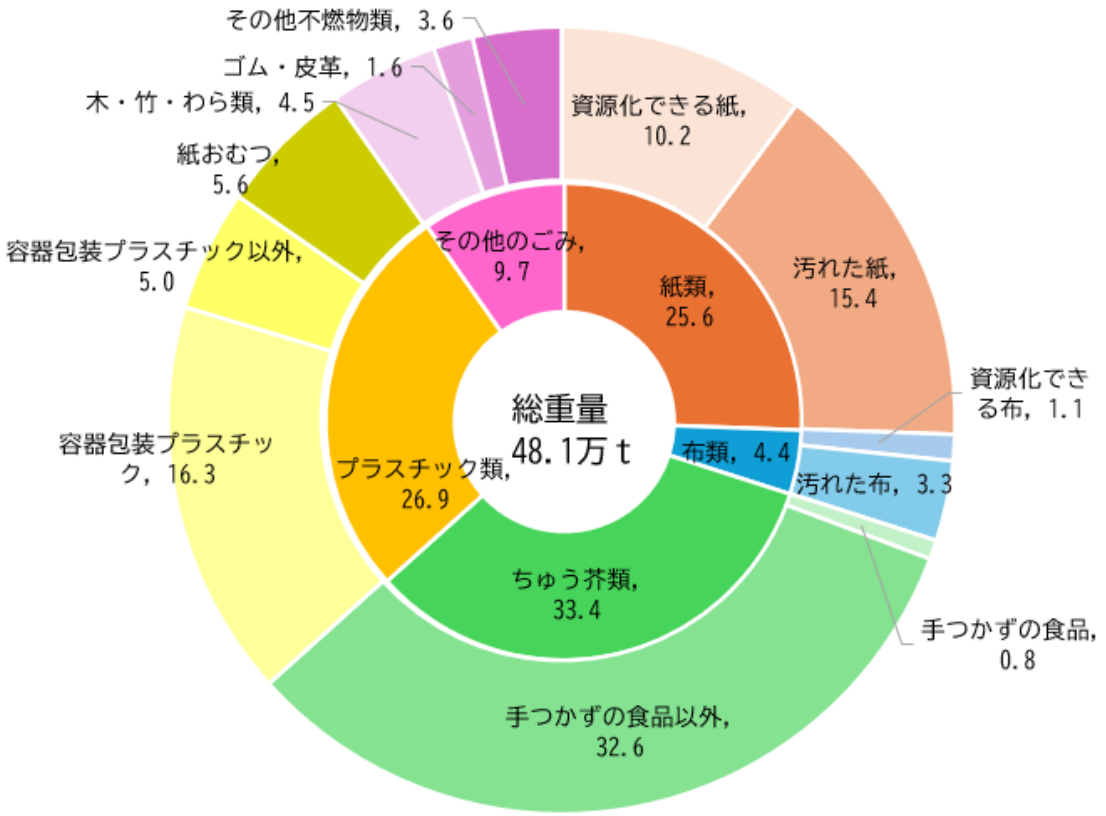
リサイクル率は、2020(R2)年度までは低下傾向だが、その後は横ばいで推移している。
びん類の減少やペットボトルの軽量化のほか、集団回収量の減少等が要因として考えられる。
リデュース・リユースを推進しつつ、適切な分別によりリサイクル率の向上を図る必要がある。



4-4　ごみの組成

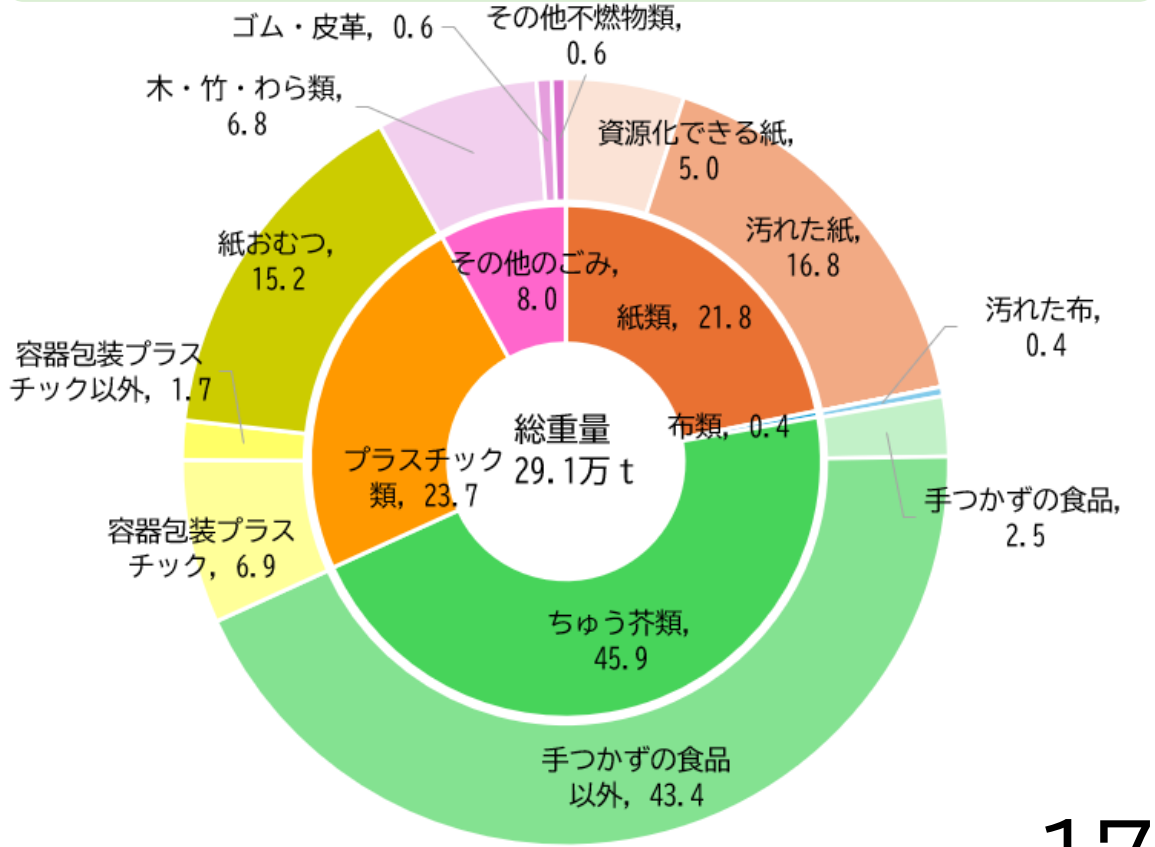
《家庭系もやすごみ》

ちゅう芥類が約33%、次いでプラスチック類、紙類が続き、それぞれ約3割程度を占める。紙類には、再資源化できるものが約10%含まれる。



《事業系もやすごみ》

ちゅう芥類が約46%を占め、うち2.5%は手つかずの食品。プラスチック類、紙類は、それぞれ約2割程度を占める。

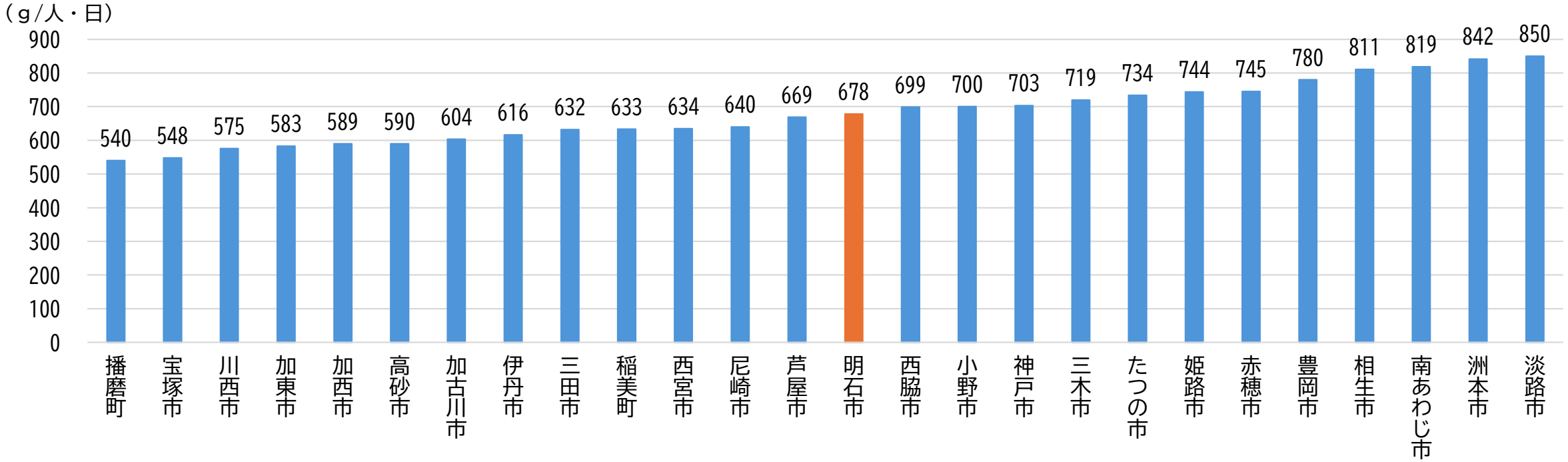


2025(令和7)年度　ごみ組成分析結果より作成

4-5　他市等との比較　(1)1人1日あたりごみ焼却量(県内各市町)

《1人1日あたりごみ焼却量(県内各市町との比較)》

1人1日あたりのごみ焼却量について、兵庫県の41市町のうち、明石市は17番目に多く、平均668g/人・日より10g/人・日上回っている。



平均:668g/人・日

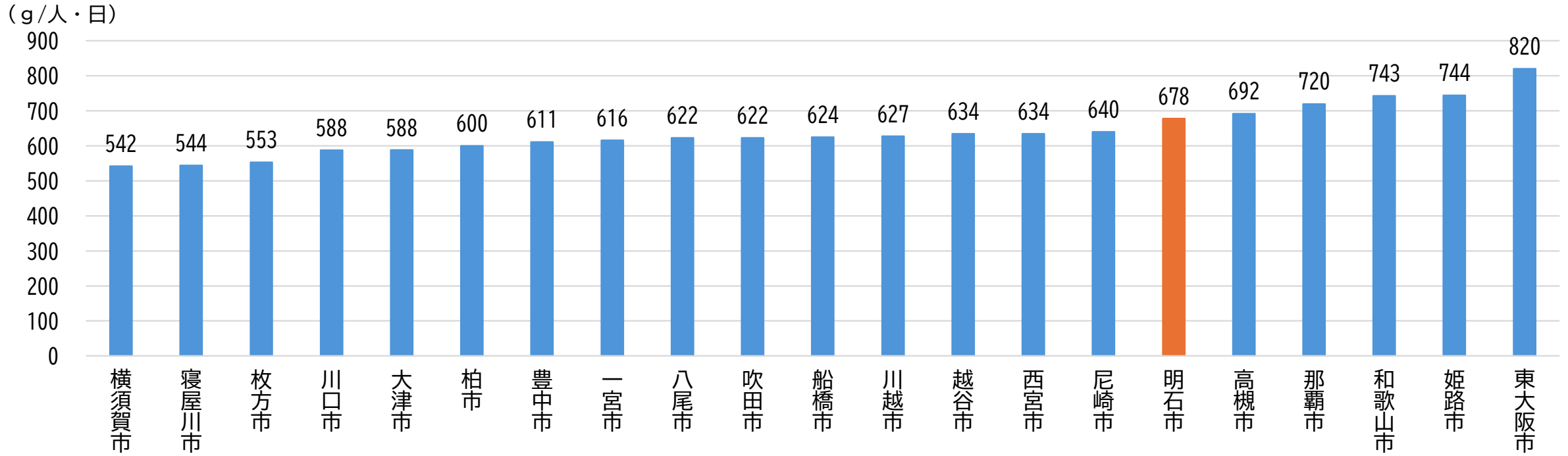
※全市及び播磨町、稲美町のみ掲載

出典:廃棄物処理技術情報　2024年度(令和6年度)調査結果(環境省)

4-5　他市等との比較　(2)1人1日あたりごみ焼却量(中核市)

《1人1日あたりごみ焼却量(中核市との比較)》

1人1日あたりのごみ焼却量について、62中核市のうち、明石市は30番目に多く、平均691g/人・日より13g/人・日下回っている。



平均:691g/人・日

※全62中核市のうち、明石市の1人1日あたりのごみ焼却量は30番目に多い。
※中核市のうち、近畿圏及び人口密度が本市と近似する都市のみ掲載

出典:廃棄物処理技術情報　2024年度(令和6年度)調査結果(環境省)

5. アンケートの実施について

5-1　アンケート(実施案)

《実施目的》

ごみ減量及び資源化の推進に向けた実効性のある施策検討の基礎資料とするため、市民の実態や意識、課題等を把握し、その結果を今後の施策の方向性や目標設定等に反映することを目的とする。

《概　要》

項目	内容
調査対象	市民アンケート ・明石市内に在住する18歳以上の世帯主1，300人(住民基本台帳より無作為に抽出) ※13中学校区ごとに100名ずつ 事業者アンケート ・明石市内1,000事業所(無作為に抽出)
実施期間	2026年(令和8年)10月1日　～　2026年(令和8年)10月31日
調査方法	郵送配布、WEB または郵送で回答

5-1　アンケート(実施案)

《内容》

アンケート	設問項目	計画への活用
市民向け	①属性に関する設問 ②ごみの排出行動(出し方・分け方)に関する設問 ・紙ごみ・小型家電・食品ロス・生ごみ ③市の取組に関する認識等に関する設問 ④市の施策に関する意見等に関する設問	ごみ排出量等の将来推計に反映 取組の効果測定 施策の推進項目への反映
事業者向け	①属性に関する設問 ②ごみの排出行動(出し方等)及び適正処理に関する設問 ③ごみ減量・再資源化に関する設問 ④ごみ処理手数料及び市の施策に関する設問	施策の推進項目への反映 ごみ処理手数料の見直しに反映